

頑張れ！佐藤選手！！ カヌー女子・東京オリンピック代表の 佐藤彩乃選手が来訪

新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期された東京オリンピック。田沢湖神代出身でカヌー・スラローム女子カナディアンシングルに日本代表として出場する佐藤彩乃選手（秋田病理組織細胞診研究センター所属）が、3月9日に田沢湖庁舎に2度目となる来訪をし、改めて門脇市長に抱負を語りました。

佐藤選手は「来るたびにたくさん応援してくださっているなという思いが伝わってきて私も本当に当日頑張らなきゃなという思いが強くなる。今年に延期されてしまったが、やることは変わらない。あともう少ししかないが、日々努力して頑張りたい」と力強く語りました。

専任コーチのディアン・テスト選手は佐藤選手の現在の状況を「ここまでのトレーニングは満足いく状態まで来ている。テスト（模擬）レースなどでも想定レベルにきている。このまま、よい環境でのトレーニングを継続していければよい状況で本番に臨めるのではないかと話しました。



同級生からのサプライズに感激する佐藤選手。

また、神代中学校の同級生からの応援メッセージが詰まった寄せ書きがサプライズで贈られると、「泣きそ」ともしながらも「保育園から中学校まで一緒だった人が多いので、すごくうれしい」と喜んでいました。

滞在期間。「帰ってくるはずが落ち着く。もう少しいたい気持ちもあると同時にもっとちゃんと練習しなきゃなと思うがそれでも地元が好き」との思いで過ごしているそうです。



この日は、佐藤選手（前列中央）のほか、ディアン・テスト専任コーチ（後列右から2番目）、佐々木将汰選手（前列右から2番目）、三島廉選手（前列右）も訪れました。

佐藤選手に一问一答

- Q：1年間大会が延期になったことで心が折れたりしなかった？
A：やるかやらないかあやふやな時は、どういう気持ちでいいかわからなかった。今はやるということを前提に頑張るしかない。
- Q：夏に迫っているオリンピックに向けた思いは？
A：延期されてもやることは変わらないので自分ができる最高の漕ぎができるように頑張りたい。
- Q：コロナの影響は？
A：日本よりスロベニアは自粛という感じではなかった。川に乗ることにそんなに害はなかった。
- Q：帰ってきて友だちと会う時間は？
A：会いたいなと思っているが、滞在が短期間で、その期間はやる事が多かったりして会えることのほうが少ない。年末年始も家に帰ってきたがあんまりゆっくりできなかった。
- Q：海外では日本食？
A：初めて海外に行ったときは、味噌汁がないと体調を崩していた。今は味噌汁を持って行っても足りなくなってしまうので調整しながら食べられるようになった。自炊することが多いので日本食になるように気をつけている。
- Q：健康・体調面はどんなところに気をつけている？
A：食事や睡眠など基本的なところに気をつけている。
- Q：最後に仙北市の皆さんにメッセージを
A：来るたびに応援されているなど感じる。まだコロナが収まっていないので気をつけてほしいなということ。私自身いっぱい応援していただいているので、私にできる漕ぎを精一杯してもっとカヌーを知ってもらいたいし、もっと元気になってくれる方や、自分も頑張るぞと思ってくれる人が増えてくれたらいいなと思っている。

善意ありがゆいやくごます

十五日会が図書カードを 田沢湖図書館へ寄贈

2月17日、十五日会（平岡三郎会長）から田沢湖図書館に2万円分の図書カードを寄贈いただきました。

この善意は、旧田沢湖町の時代から続けられていて、子どもたちが本に親しめるよう図書館により児童書をそろえてほしいという十五日会の皆さんの思いが込められています。寄贈された図書カードで、今年も子どもたちに人気の絵本を購入しました。ぜひご来館ください。



十五日会の平岡三郎会長（左）と秋田銀行田沢湖支店の宮崎康史副長（右）。

栄光・表彰 ～輝くとき

令和2年度文部科学大臣優秀教職員表彰

三浦和義教諭（生保内小）が受賞



教壇に立つ三浦教諭。

生保内小学校の三浦和義教諭が令和2年度文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞し、3月18日に熊谷教育長へ報告に訪れました。

この表彰は、全国の国公私立学校（大学、高等専門学校を除く）の現職教職員を対象に、優れた成果をあげた教職員を表彰する制度です。今年度、秋田県では8人が表彰され、仙北市からは三浦教諭が表彰となりました。

三浦教諭は、臨時講師を含めると教員歴27年。生保内小学校勤務は今年度で5年目になるそうです。

今回の受賞は、国立教育政策研究所が実施する教育課程や指導方法などの改善を図ることを目的とする「指定教育課程研究指定校事業（生

活科）」に平成29年度・30年度、同校が指定され、三浦教諭はその研究主任として実践、その取り組みが評価されました。具体的には、体験と表現を繰り返して、気づきの質を高める授業改善を図るとともに、幼児期における学びや中学以降の学びへの接続を意識した教育課程の在り方、思考力・判断力・表現力などの育成、認定こども園と連携したスタートカリキュラムの開発に取り組みました。

三浦教諭は「今回の受賞の重さを感じています。生活科をはじめ、総合的な学習の時間を通して、全校をあげて取り組んだ今回の研究は、子どもの思いや願いを大切にしたい授業づくりの基本を学ばせていただきました。子どもたちをはじめ、教職員やこども園、保護者の皆さま、たくさんのご協力をいただいた地域の皆さまに改めて御礼を申し上げます。今後、こども園との連携を大切にするとともに、地域を誇りに感じ、より大切に思う子どもたちを育てられるように、ここで慢心せず、子どもたちのために研修に努めて参ります。本当にありがとうございました」と受賞を喜びました。



熊谷教育長（右）に報告に訪れた三浦教諭（中）と生保内小学校の藤田寿校長（左）。